

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：地域振興対策費

事業名 清流の国ぎふづくり推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 地域振興課 地域プロモーション係

電話番号：058-272-1111 (内 2099)

E-mail：c11143@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,216 千円 (前年度予算額：6,889 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,889	0	0	0	0	0	0	0	6,889
要求額	6,216	0	0	0	0	0	0	0	6,216
決定額	6,216	0	0	0	0	0	0	0	6,216

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・本県のアイデンティティである「清流」を、県内外や海外を魅了するブランドや、そのイメージとして確立する必要がある。
- ・「清流ミナモ賞」や、「清流の国ぎふ」マスコットキャラクターミナモの活用をはじめ、各種広報グッズにより県内各地での「清流の国ぎふ」づくりを一層盛り上げていくことが必要である。
- ・「清流の国ぎふ」づくりを促進するため、市町村における地域資源を生かした魅力づくり、地域づくりに対して、助言や情報提供を行う必要がある。

(2) 事業内容

- ア 「清流の国ぎふ」広報啓発
- ・ぬいぐるみ等広報物の購入
 - ・ミナモデザイン、ミナモグッズの制作
 - ・ミナモ工房認定校 PR グッズ制作資材
 - ・事業費…4,759 千円
- イ 「清流ミナモ賞」表彰式の開催

- ・わがまちへの誇りを高める活動団体を顕彰（平成25年度から）
- ・期日…令和3年10～11月頃
- ・事業費…1,286千円

ウ 地域づくり支援

- ・事業費…171千円

(3) 県負担・補助率の考え方

県政の広報啓発であることから、県10/10負担

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	74	「清流ミナモ賞」選定委員会報償費
旅費	531	「清流ミナモ賞」選定委員会費用弁償 清流の国ぎふ広報啓発等 県内市町村打合せ等
需用費	1,620	ミナモグッズ（広報啓発用）及び「清流ミナモ賞」記念品購入費等
役務費	1,282	着ぐるみ補修、クリーニング、発送代等
委託料	2,571	「清流の国ぎふ」広報啓発費、「清流ミナモ賞」表彰式
使用料	138	「清流ミナモ賞」会場及び駐車場借上料
合計	6,216	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

(2) 後年度の財政負担

みんなが主役の「清流の国ぎふ」の全県的な展開のため、継続して機運の醸成、体制の整備を図っていく。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
広報・啓発事業等により、みんなが主役の「清流の国ぎふ」づくりに取り組む機運の醸成や体制の整備を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
				(前々年度末時点)		
「清流の国」商標の使用件数	一件 (H一)	96件 (H29)	110件 (H30)	102件 (R1)	185件 (R5)	55%
清流ミナモ賞の表彰団体数	一団体 (H一)	29団体 (H29)	35団体 (H30)	35団体 (R1)	50団体 (R5)	70%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - 「清流の国ぎふ」広報・啓発
ミナモグッズ（広報啓発物）作成・配布、着ぐるみミナモのクリーニング及び補修
 - 「清流ミナモ賞」表彰式
日時：令和2年9月14日(月)
場所：ぎふ清流文化プラザ
表彰団体：3団体
 - 「清流の国」商標使用実績
7件（令和2年9月末現在）

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
「清流の国ぎふ」広報・啓発事業等により、みんなが主役の「清流の国ぎふ」づくりに取り組む機運の醸成や体制の整備を図った。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>本県で開催した「全国植樹祭（H18）」、「全国豊かな海づくり大会（H22）」、「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会（H24）」を通し高まった、「清流の国ぎふ」への誇りや愛着をさらに高め、県政全般にわたる本格的な「清流の国ぎふ」づくりを、県民総参加により継続・発展させていくことが必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<p>各地域の資源や強みを活かした魅力的な地域づくり活動に取り組む団体を表彰する「清流ミナモ賞」の開催を通じ、地域への愛着・誇りの醸成に寄与している。R2は、複数の推薦をいただき、3団体を表彰。</p> <p>「清流の国」商標の使用件数も、順調に増加しており、成果があがっていると考えられる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	<p>「清流ミナモ賞」の表彰式を県民参加のイベント（SDGsフォーラム）と同時開催することで、効率化を図った。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>引き続き、県内各界有識者など、関係者の意見を幅広く聴収することが必要と思われる。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>引き続き、広報・啓発事業等により、みんなが主役の「清流の国ぎふ」づくりに取り組む機運の醸成や体制の整備を図る。</p>
